

## 第4回 和歌山県古墳時代研究会の報告

開催日時：平成24年9月1日（土）13:30～16:30

開催場所：和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市岩橋1411番地）

発表：

「東国山1号墳の概要報告」「東国山1号墳の須恵器の編年的位置づけ」

富加見泰彦（紀伊風土記の丘）

東国山1号墳（和歌山市）は6世紀前半の円墳で、昭和31年に未盗掘の状態で発掘調査された竪穴式石室から男性と女性の2体の人骨と100点を超える須恵器・土師器が発見されました。土器の中には穀類や魚類、貝類などが入った状態で見つかっています。開催中の企画展「古墳時代の宇都波（うつは）」で、東国山1号墳から出土した大部分の土器を展示しており、この機会に概要を報告して、出土遺物の検討をおこないました。東国山1号墳の調査は、正式な報告がなく、石室や土器の実測図も公表されていません。未盗掘の石室から出土した一括資料と考えられる多量の土器は土器編年を考えるうえで貴重な資料となります。

「八反田遺跡・八丁田圃遺跡・徳蔵地区遺跡の弥生土器・石器の観察」

萩野谷正宏・仲原知之（紀伊風土記の丘）

9月末から開催する特別展「紀伊弥生文化の至宝」を準備している中で、紀南地域の様相が少しわかってきたので、その概要を発表しました。和歌山県の古墳時代を理解していくうえでも、弥生時代の和歌山についても検討していければと思います。紀南地域の八反田遺跡（新宮市）・八丁田圃遺跡（田辺市）・徳蔵地区遺跡（みなべ町）の弥生土器や石器を実際に観察して検討しました。石器については、サヌカイト以外に地元産の頁岩を利用した石鏃などがあること、紀北産の片岩製石庖丁や石棒などがあることを説明しました。土器については、東海系・瀬戸内系・近江系など他地域の土器が搬入されている状況を確認しました。

参加者：（敬称略）

＜発表者＞富加見泰彦・仲原知之・萩野谷正宏（紀伊風土記の丘）

＜参加者＞河内一浩（羽曳野市教育委員会）、辻川哲朗（（財）滋賀県文化財保護協会）、加藤俊平（東海大学）、藤藪勝則（和歌山市文化スポーツ振興財団）、中東洋行（橿原考古学研究所）、絹畠歩（橿原考古学研究所）、関真一（大阪府教育委員会）、富永里菜（和歌山市教育委員会）

（以下風土記の丘ボランティア）岡本美代子、二河田喜美子、木村健、川本幸男、鳥居千純、芝貴子、佐藤広明、山名憲子、中野圭子、水田久枝、芝田鶴子  
＜発表者3名+19名 計22名＞

【参加者のコメント・質疑応答】

＜東国山1号墳の概要報告・須恵器の編年的位置づけ＞

富加見： 補足ですが、この時期の岩橋千塚古墳群の竪穴式石室はおおむね小さい石室が多いのですが、長さ3.4mという大きな竪穴式石室です。また、この時期にこれだけ土器を副葬するのは渡来系の影響が強い古墳だと思いましたが、渡来系の遺物の出土はありません。

芝： 竪穴式石室で2体以上埋葬するのは和歌山ではここだけですか。

富加見： ここだけだと思います。2体の頭位は逆向きですが、同時埋葬だと思います。棺があったかどうかはよくわかりません。石室内に割石が置かれているように見えるので、棺台の可能性がります。

辻川： 鉄製品の遺物コンテナの中に「鉄釘」と書いたラベルがありますが、実物はありませんか。鉄釘なら木棺があったことになりませんが。

仲原： 東国山の鉄製品が現在風土記の丘に寄託されていますが、鉄釘はありません。鉄鏃などの誤認ではないでしょうか。

辻川： ここにある鏃または鏃状のものとの誤認かもしれませんね。

関： ここから出土した人骨や貝殻などの所在はどこですか。

富加見： 人骨や貝殻の所在は不明です。岩出中学校に保管されていたものは現在岩出市民俗資料館に寄託されていますが、土器だけです。鉄製品は風土記の丘に寄託されています。それ以外は不明です。

河内： 2008年度の紀伊風土記の丘の展示（『企画展未盗掘古墳』）で東国山1号墳の玉類が展示していましたが。

仲原： 風土記の丘にはありませんので、岩出市だと思います。（後日河内氏が岩出市民俗資料館に展示しているのを確認。）

藤藪： 両小口側に須恵器がまとまって出土していますが、それぞれの組成や配置などは明らかにすることはできませんか。

富加見： 調査の原図がないのでむづかしいと思います。写真についてはもう少し別のものもあるようなので写真からどれくらい判定できるかわかりませんが見てみたいと思います。蓋杯以外の器種はある程度わかると思います。

木村： この古墳の時期はいつですか。

富加見： 出土した土器の型式からみると6世紀前半から中頃のものが多い。以前橿原考古学研究所の木下さんと和歌山市教育委員会の前田さんと一緒にこの土器を検討したことがあって、TK47・MT15・TK10の須恵器が大半を占めることを確認しました。須恵器の型式は1型式ではありません。またTK209のものが1点含まれています。一部5世紀後半にさかのぼるような須恵器もあります。現在須恵器編年は大阪府の陶邑での編年を使っていますが、和歌山県独自の編年は確立していません。このあたりが問題になっていると思います。須恵器の多くが陶邑産で

はなくて和歌山産の可能性がります。

河内 : 土師器の中で No. 55 の杯が非常に新しく見えます。高杯の可能性はありませんか。

辻川 : 確かに新しいと思います。また須恵器でも No. 14 の TK209 形式と思われるものが1点だけあるので、これらの資料の一括性は問題ないのですか。東国山の資料は発掘以来、岩出中学校で保管されていたということですが、保管中に資料が混在した可能性も考えるべきではないでしょうか。『紀伊の古墳』で出土遺物の写真がいっぱい掲載されていたと思うので写真と照合できればいいのですが。

富加見 : 岩出中学校には船戸山古墳群の土器も保管されていたので、その可能性は否定できないと思います。新しい型式の土器にはずっと違和感がありましたが、別の遺跡の遺物が混入しているかもという視点でもう1度見直す必要があると思います。調査の原図は所在不明なので、写真しか照合するものはありません。一度写真と照合できるかやってみたいと思います。

辻川 : はそうや高杯についてはある程度時期的にまとまってきそうだと思います。多少古い型式が含まれることは問題なく、新しい須恵器が混在したと考えれば、一括資料とみてもいいと思います。

仲原 : はそうや高杯など蓋杯以外の器種については『紀伊の古墳』掲載写真にありますので、東国山1号墳出土で間違いのないと思います。

仲原 : 発表では土器は100点以上あるということなのですが、『紀伊の古墳』の記述では須恵器・土師器の点数が75点となっています。

富加見 : 岩出中学校にあった東国山とされている土器は100数点あり、そのことには疑いもなかったのですが、一度写真を照合するなどして確認する必要があると思います。

後日、企画展終了後、富加見・仲原で『紀伊の古墳』掲載の遺物写真と照合したところ、掲載写真の点数は合計106点で、土器のほぼすべてが東国山のものと確認できました。『紀伊の古墳』の記述にある点数は、須恵蓋杯34個となっており、掲載写真よりかなり少なくなっています。これは蓋と身のセットが34個ということであれば近い点数になってきます(掲載写真では蓋32点・身33点)。問題になっていた5世紀の可能性のある須恵器やTK209の須恵器、新しい土師器などは掲載写真にはないので、他遺跡資料からの混在である可能性が高いと思われる。今後混在が疑われる遺物の帰属が何らかの形で照合できればと思います。

### <八反田遺跡・八丁田圃遺跡・徳蔵地区遺跡の弥生土器・石器の観察>

- 仲原 : 石器についてですが、八反田遺跡の石鏃の石材は、サヌカイトと地元産の頁岩が半々くらいです。この他にもスクレーパーや鑿状の石斧にも頁岩が使われています。石庖丁は片岩製ですが、紀南の他の遺跡では頁岩系の石庖丁が出土しているようです。頁岩製の打製石鍬（打製石斧）が出土する遺跡もあります。八反田遺跡では頁岩以外にも地元産と思われる砂岩製の刃器のようなものも出土しています。このように紀南の遺跡ではサヌカイトや片岩など地元にはない石材を利用した石器と地元産石材の石器が認められます。遠隔地の石材が入手しにくい地域では地元産の石材を補完的に利用していたと考えられます。
- 萩野谷 : 土器については、縄文時代晩期～弥生時代前期にかけて東海系の土器は一定量入ってきています。河内の生駒西麓産の土器が紀南地域にも搬入されている状況が確認できます。八反田遺跡では近江系土器が出土していますが、県内では珍しいもので、県内唯一かもしれません。
- 関 : 生駒西麓産の土器が紀南地域に入るルートは山側のルートか海沿いのルートかどちらと考えますか。
- 河内 : 生駒西麓産の土器は橋本市域ではよく見かけるような気がします。堅田遺跡（御坊市）では生駒西麓産の庄内甕がありました。
- 富加見 : 藤並地区遺跡（有田川町）でも当該期の生駒西麓産があります。
- 萩野谷 : みなべ町や田辺市あたりでは海沿いルートだと思います。新宮市あたりでは山側ルートや伊勢湾からのルートも考えなければいけないのかもしれない。
- 仲原 : 紀北の東海系土器はどのように入ってきたと思いますか。
- 萩野谷 : 紀北では岡村遺跡で中期前半に認められますが、あまりまとまって人間が来ている感じはありません。前期から中期初頭まで田辺市くらいまではまとまって入っている感じです。海沿いのルートだと思います。
- 仲原 : 和歌山市内でも東海系の土器はあまり出土しませんか。
- 藤藪 : 和歌山市内で東海系の土器は見かけません。西日本系の土器もほとんど確認できないけれど、それは認識ができていないだけのようになります。同志社大学がかつて調査した太田・黒田遺跡には瀬戸内系の土器が一部含まれているみたいですが未報告です。
- 仲原 : 太田・黒田遺跡の県1次調査では、摂津型の大形の水差形土器が出土しましたが、胎土に片岩が含まれているため紀北の土で製作しています。徳島産の土器もあるのかなと思います。こちらが認識できていません。徳島産は胎土に片岩が含まれると思いますので。
- 萩野谷 : 和歌山市の前田さんがかつて指摘したように中期以降、頸部に突帯

を巡らすような土器が多くあり、和泉や河内地域ではなく、播磨地域との共通性が認められます。

辻川 : 八反田遺跡の近江系土器ですが、中期末～後期初頭のもので、作り方やプロポーションなど湖南地域系でいいと思います。やや胎土が違うかもしれないので、湖南以外、和歌山などで作られた可能性もあります。近江系土器は伊勢湾北西まで入っているのので、伊勢湾からのルートで入ってきているのでしょうか。近江系土器は北部九州や韓国まで広がりますが、八反田遺跡の資料は近江系土器の南限と考えられます。ここ以外に近江系土器は出土しますか。

藤藪 : 和歌山県では出土していないと思います。

萩野谷 : 八反田遺跡の近江系土器は、時期が違いますが、弥生時代前期～中期前半の伊勢湾西岸などの東海系土器と同じルートをたどったのではないのでしょうか。